



# さいじょう 国際交流NEWS



第25号

December 2019

目次

ハロウィンイベント 1

河北大学訪問 2

ベトナムの生活 2

国際交流月間 3

アフリカの一日

アフリカ武器アート

ニジェール映画

産業祭 3

**DATES WITH  
DIANA** 4

国際交流INFO 4

さいじょう国際交流NEWS

は年4回西条市国際交流協会事務局によって発行されています。ご質問・ご感想、または掲載してほしい情報がありましたら下記までご連絡ください。

## Happy Halloween2019



10/26(土)西条市商店街まちづくり協議会と共催で今年もハロウィンパーティーを開催しました。お天気もよく、約2,000の方が商店街を訪れました。それぞれ自慢の仮装をし、トリックオアトリートやゲームなどを楽しんでいる様子があちこちで見られました。

今年は『子供も大人も楽しもう!』ということで、大人のフェイスペイントも実施しました。少し恥ずかしそうにフェイスペイントする大人を、子供たちが笑顔で見ている姿は微笑ましく、まさに参加者みんなが楽しめるイベントだと感じました。また、今年も100名以上のボランティアの方が参加してくださいました。それぞれが、ボランティアとしての仕事を笑顔で懸命にこなす様子には感動を覚えました。



今年の山車「だし」はみなさんがよく知っている女の子。インパクト抜群で商店街を端から端まで子供たちと楽しそうに移動する様子は圧巻でした。



最後になりましたが、今年も多くの皆さまの協力のもと、イベントが安全に無事開催できたことを、この場をお借りしお礼申し上げます。



イラストに応募していただき、ありがとうございました。

**最優秀賞は**

「つかはらみき」さん

**優秀賞は**

「やのほのか」さん

「いとうかほ」さん

「たじつさき」さん

が選ばれました。おめでとうございます!!!



# 河北大学西条市訪問

令和元年7月22日～30日、西条市の友好都市である河北省保定市の河北大学から張如意先生、宋萌先生、日本語をメインで学んでいる学生15名が市内でホームステイをしながら、石鎚登山、学校訪問などを通じて市民と交流をしました。

今年は友好都市締結25周年。河北大学生には、今回の西条滞在を糧に、将来日中の友好の懸け橋として活躍して欲しいものです。

## 河北大学西条市訪問団スケジュール

日付	行程
7月22日	北京空港→ 広島空港着→西条へ 東予国民休暇村(海辺体験)
7月23日	西条市役所発 → 愛媛県表敬訪問 → 松山城 → 愛媛大学訪問 → アサヒビール園(歓迎会)
7月24日	西条市役所表敬訪問 → 今治造船訪問 → 西条商工会議所 → アサヒビール → 花王サニタリープロダクツ → macドラッグストア
7月25・26日	西条市役所発 京都・奈良・大阪
7月27日	美味休心 → 西條神社 文化体験(華道・茶道・浴衣着付け体験等) 済生会いしづち苑夏祭り(自由参加・商店街土曜夜市・にゅうがわ花火大会等)
7月28日	ホストファミリーと過ごす
7月29日	西条市役所発 → 石鎚ロープウェイ → 昼食(成就) → 椿温泉 → 西条市役所着
7月30日	西条市役所発 → 鉄道歴史パーク → 図書館 → うちめき水巡り → 水都市 → 西条高校 → 済生会病院(委員長主催送別会) → 西条市役所着
7月31日	帰国



## 《事業実施報告》

## ベトナムでの生活



私はハノイで1年近くベトナム語を学びました。ベトナムでの生活には、たくさんの思い出があります。もし「どれが一番楽しかったの？」と尋ねられたら、答えることは出来ないでしょう。でも、その中からひとつだけ選んでお話ししたいと思います。

ハノイでの生活は驚くことばかりでした。たくさんのバイクが流れの激しい川のように

走っているのです。「どうしよう！！どうやって道を渡ればいいのか？」と私は思いました。その時、私はまだ上手に道を渡ることができませんでした。そんなある日、道を渡らなければいけないときがきてしまいました。信号はなかなか見つからないし、あっても誰も信号のことなんて気にしていません。渡ろうと右往左往してみました、道を渡ることは出来ませんでした。

「少々バイクにぶつかったって、大丈夫じゃないかな」と考え出したとき、ひとりの女性がこちらをみて微笑んでいました。

彼女は道を渡ろうとする私の手を掴みました。彼女は私の手を掴んだまま歩き出し、彼女が手を挙げるとバイクが止まりました。

道を渡り終えると、彼女は振り向いて私に微笑みました。そのあとすぐに、彼女は何も言わずに立ち去ってしまいました。私は彼女にお礼を言うことが出来ませんでした。

日本人の友人にこのことを話すと、彼女にもハノイで同じような経験をしていました。

「おじさんが道を渡るのを助けてくれたの。多分、おじさんは、道渡れないのかな、道も分からないのかなと思ったんじゃないかな。私はグラブを呼んだだけなんだけどね！助けてもらったあと、自分で道をもう一度道を渡りなおしたよ！！」



## 国際交流月間

西条市国際交流協会の団体会員である「国際交流をすすめる会」の皆さんの企画により「アフリカ」をテーマにしたイベントが開かれました。



### 「アフリカンな1日」

8月24日(土)西条公民館で「アフリカンな1日」が開かれました。メニューの1つであるピーナッツとココナッツミルクのカレーは、私たちが普段食べているカレーとは、味も見た目も全く違うものでした。スパイシーなお肉やポテト料理などを食べ、まだまだ暑い夏を乗り切る活力を蓄えました。



### 「モザンビーク武器アートとともに語る会」「武器アート展」

9月8日(日)えひめグローバルネットワーク代表理事である竹内よし子氏を講師に招き、「モザンビーク武器アートとともに語る会」が開かれました。竹内氏はモザンビークで内戦に使用されていた武器と放置自転車とを交換する活動をしており、毎年モザンビークを訪問しています。そんな中で、武器アートに出会い、その作品に込められた、平和への願いを武器アートとともに紹介してくださいました。武器アートは、9月23日まで図書館に展示されており、鑑賞した皆さんからたくさんの感想が寄せられました。

### 「ニジェール映画上映会&帰国報告会」

9月16日(月)ニジェール映画『CARAVAN TO THE FUTURE』の上映会とモザンビークを訪問した西条高校教諭松田達也先生と高校生ウェストロップはんさんの帰国報告会、西条農業高校の青パパイヤの栽培についての発表がありました。

先生とウェストロップはんさんは、自らがモザンビークで体験したことをスライドや現地の道具や衣類等を使いながら、詳しく発表してくださいました。



## 産業祭 AFRICA FE

11月9・10日(土・日)に西条農業高校で開催された産業祭に、国際交流協会から「AFRICA FE」を出展しました。今年のテーマは“アフリカ。VRでアフリカへ行った気分になったり、水運びを体験したり、アフリカの衣装を着たりと、皆様に楽しんでいただけたのではないのでしょうか。また、アフリカからの留学生も参加し、お茶を飲んだりお菓子を食べたりしながら、楽しい時間を過ごしました。会場には、アフリカの衣装やシマウマの群れの大きな写真などが展示され、束の間のアフリカ気分を味わいました。今年もJICAの展示コーナーがあり、ボランティアの写真パネルが展示され、西条市出身の皆さんが世界中で活躍したことがよく分かりました。



### ジャマイカ料理



今年1階では、ジャマイカ料理の「ジャークチキン」を販売しました。1日目予定より多く売れたので急遽材料を買い足し、2日目に臨みましたが10:30には完売してしまいました。ボランティアで参加してくださった方々本当にありがとうございました！来年も楽しみに！！

★★★★★★★★★★★★★★  
★ Dates with Diana ★  
★★★★★★★★★★★★★★

## 英語学習

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、世界中のアスリートたちは体の限界までトレーニングに励み、母国のためにメダルを勝ちとろうとしています。東京だけではなく、日本のいたる所で地方自治体や非政府組織がオリンピック・パラリンピックと今後のインバウンドツーリズムに見すえ、外国から来る方々をあたたく受け入れるために必要な施設設備や取り組み等に力を入れています。それと同時に、日本の英語教育も重大な転期に立っています。日本の教育行政では、全体的に英語教育を強化したり、もっと若いうちに子供が英語に触れ合える機会を作ろうとしたりしています。その理由は、加速化する相互依存のグローバル社会の中では、日本人がより英語を使って効果的に働いたり、コミュニケーションを取ったりする必要があるからと言われています。

西条市でも英語学習に熱心な方がとても多く、その努力に感動させられます。私も語学の勉強がとても好きですが、アメリカでは一般的に高校生になってから外国語学習が始まります。かといって、学校教育の範囲外で個人的にレッスンを受けようと思ってもありませんでした。ですから、高校に入って、やっとフランス語の勉強を始めることができました。私の高校ではフランス語だけではなく、フランスの文化などについて学びました。それを思い出したら、外国語として英語を学習している日本人は異文化も同時に学んでいるのだろうかと思いました。

英語はイングランドの母国語だといえるかもしれませんが、帝国主義と植民地主義のために、イギリスとは異なる文化背景を持っている人達も英語を母国語として利用しています。また、英語を母国語としない人たちも社会的には統合されているので、その国の人々もネイティブスピーカーとして認められます。(実は、フランス語も同じ理由でフランスに限られていないのです。ただ、英語ほど規模が広くないのです。)ですから、そこで疑問がでてきます。英語を学習している人は語学の学習だけすればよいのでしょうか。それとも、同時にイギリスの文化についてのみ学習すればよいのでしょうか。

現在イギリスは移民の国なので、イギリスの文化には二面性があるといえるでしょう。一面は、代々に受け継がれてきている伝統的なイギリスですが、もう一面はイギリスに溶け込んできた移民や異文化と関わって影響を受けた英国人のイギリスだと思います。さらに、上記の通り英語は他のいくつかの国の母国語としてされているので、その国の文化も学習すればよいのでしょうか。英語と関連している国と文化があまりにも多い中で、英語教育では「異文化」をどのように取り組むべきか大きな課題です。そもそも、このグローバル社会では英語さえ分かれば大丈夫という考え方もあります。私はそのような意見に賛成できないのです。率直に言って、相手の立場に関心を持っていなければ、どれほど英語が分かっているか、コミュニケーションが上手にとれないのではないのでしょうか。

英語に関連する異文化事情は複雑なのですが、その複雑な文化背景にこそ英語の面白さがあると思います。ですから、英会話の勉強だけではなく、国際交流や異文化理解も目的とす

る講座に取り組んでできました。今年度の英語読書クラブでは、アメリカに移民した作家が書いているエッセイ集「The Good Immigrant: 26 Writers Reflect on America」を1冊読むことにしました。アメリカへの移民の話ですが、グローバル化された現代に普遍性が見られるテーマが含まれていますし、在留外国人が増加している日本にも関連があると思ひ、この本を選びました。

この講座を始めるまでとても緊張しました。英会話を中心に勉強している方が多く、移民の話(私にとって大事な課題)に興味を持ってもらえるだろうか心配しました。また、内容も難しく、生徒達が嫌にならないだろうかとも思いました。講座が始まって、3回目が終わったところです。やはり難解で、あきらめたい気持ちもあると察しますが、英語にあまり自信を持っていない方もディスカッションに参加してくれているので、みなさんが関心を持っていると安心しました。講座では、普段あまり周りの人と話さない課題について会話ができ、とても有意義な時間だと感じています。そして、教師としては生徒達に会うたびにみんなの心の広さに感動して、感謝にあふれています。

日常会話では、異文化についてなかなか深くまで話さないと思います。「異文化」というのは幅広く「違う国の文化」だとされていますが、我々人間は国境を超えてきた歴史が長いのです。一つの国の中でも、異文化があります。また貴方たちは「アメリカ人」「日本人」などと一般化してしまいがちなので、異文化の「グラデーション」や「レベル」についての会話がなかなか始まりません。その上、日本では異文化というのは「外国」と「外国人」と思う傾向がありますが、「外国」という言葉の意味自体が非常に限られています。様々な国があると分かっている、「外国人は」という言い方を使ったとたん、他の国の人を一つにしてしまいます。異文化の中でも似ていることもあるし、同じ国から来ている人の中にも違いが普通にあります。英語を学習する理由は様々ありますが、「異文化」について考えながら英語を学んだら英語学習はより価値あると思ひています。

### 【国際交流 INFO】

#### <第2回国際交流カフェ>

- ◆日時: 12月14日(土)10:00~12:00
- ◆場所: 大町公民館
- ◆参加費: 一般300円 協会員200円  
3歳以上100円



#### 編集 後記

この間9月号を発送したと思えば、もう12月! 今年も皆様のご協力のおかげで、数々のイベントを開催することができました。感謝申し上げます。少し早いですが、皆様よいお年をお迎えください。(小)

#### 国際交流NEWSスタッフ:

小杉 麻衣子(小)  
ダイアナ・マリー・リントン(ダ)  
グエン・ブイ・アン・ティー(ア)



フルカラーで読める!